

# 宮古港



## 岩手県県土整備部港湾課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

☎019-651-3111(代)

URL : <https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/kouwankuukou/kouwan/index.html>

## 1. 概況

### 〈沿革〉

宮古港は、県内沿岸のほぼ中央に位置し、外海から遮蔽された良港として知られ、北海道へ向かう漁船の寄港地として、又沖合に豊かな漁場を持つ漁業基地として栄えてきた。

大正11年に内務省指定港湾、昭和2年に第二種重要港湾に指定され、昭和4年には内務省直轄施行により出崎埠頭の修築工事に着工し、昭和12年に3千トン岸壁2バース、防波堤255m、閉伊川左岸物揚場1,336mが完成し、近代港湾としての形態を整えるに至った。出崎埠頭の完成と時を同じくして国鉄山田線が開通し、閉伊川筋が開発されたことによって、背後地の開発が促進され、窯業・鉱業・木材工業が相次いで立地した。

さらに昭和26年には現行港湾法の制定と同時に重要港湾に指定され、昭和28年には岩手県が港湾管理者となった。

戦後の経済復興により、背後圏立地工場の鉱産品などの原材料を中心とした港湾取扱貨物量が急増したため、出崎地区で岸壁工事に着手し、昭和39年に1万トン岸壁が完成した。

その後、背後地の鉱工業の発展に伴う輸入木材等の港湾貨物の急増に対処するため、昭和38年の港湾審議会において、藤原地区に新埠頭の建設、神林地区に輸入木材港の新設、日立浜地区に漁獲取扱施設の整備等が決定され、昭和42年度に木材港が完成した。また、この計画により藤原地区の-12m岸壁を主体とした整備が進められた。

昭和49年3月には、国道106号の整備によって盛岡地域が背後圏となり、宮古港の港勢の変化及び都市再開発の土地需要に対処するため、昭和51年度には藤原地区の一部が供用開始されるなど、今後、港勢は一段と躍進するものと期待された。しかし、その後整備を進めていくうえで、漁業者との調整が難航し、昭和56年に一部調整はついたものの、全面解決には至らなかった。

昭和60年代に入り、関係者の努力により、難航していた漁業者との調整に終止符が打たれ、昭和61年10月には、藤原・神林地区の公共ふ頭、出崎・鉾ヶ崎・日立浜地区のレクリエーション施設、高浜地区の漁業関連施設を骨子とした港湾計画が決定された。平成2年度までに藤原地区には、水深-12m岸壁1バース、-10m岸壁4バース、-7.5m岸壁4バース等が完成し、かつての出崎ふ頭中心から藤原ふ頭中心の港に変わった。

また、平成7年11月には、神林地区にヨットハーバー整備が追加決定され、平成11年4月に完成し、同年8月に開催さ

れたインターハイのヨット会場として利用された。

平成23年3月、東日本大震災津波の被害を受けたが、現在は復旧している。

また、平成30年6月22日には県内初となる定期フェリー航路が就航したが、令和2年3月31日をもって宮古港への寄港を当面休止することとなった。

現在は、出崎地区においてふ頭用地等の整備が行われており、交流人口の拡大が期待されている。

### 〈地勢〉

本港は、岩手県沿岸の中央に位置し(北緯39度38分、東経141度59分)、西南に深く湾入した宮古湾にある。北東に開口した湾口は重茂半島の突出しによって外海からの波浪の直進が遮られることから、冬期においても概して平穏である。

湾内では養殖漁業が盛んで、湾奥の津軽石川には鮭が遡上する。また、三陸復興国立公園の中核となる浄土ヶ浜があり、石英粗面岩の白い岩肌を有する奇岩は観光地として有名である。さらに、地球科学的に貴重で素晴らしい景観を持つ三陸ジオパークを代表するジオサイトとしても登録されている。

### 〈市勢〉

宮古市は、面積約1,260km<sup>2</sup>、人口約52,000人で沿岸第一の都市である。就業人口は約27,000人で、第1次産業8%、第2次産業28%、第3次産業64%となっている。

市内には、ホクヨープライウッド(株)、片倉コープアグリ(株)などの企業、中小の木材関連工場、水産加工場があり、典型的な臨海型の港湾都市を形成している。

### 〈特徴〉

宮古港は、江戸時代に南部藩が藩港として開設したという歴史をもち、平成27年に開港400年を迎えた。

また、本港は毎年国内外のクルーズ船が寄港しており、豊富な観光資源や歓迎行事などが高く評価され、近年寄港するクルーズ船が増加している。

復興道路として急速に建設が進められている宮古盛岡横断道路の起点となる宮古港ICが令和2年に供用を開始することから、高速交通ネットワークと直結する港湾として、物流の飛躍的拡大が期待されている。

### 〈計画〉

現在、出崎地区では、竜神崎防波堤や緑地などを整備しており、隣接するみなとオアシスの代表施設であるシートピアなどや宮古市魚市場と一体的となった賑わい空間の創出により、交流拠点としての機能拡充が進められている。